

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	創造工学Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0001			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	創造工学科（電気電子系共通科目）			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	プリント教材・資料						
担当教員	佐沢 政樹,堀 勝博						
到達目標							
【工学基礎能力】自身の専門系に関する基礎的能力を身に付けるとともに、他分野・ICT技術と自身の専門分野との関連性について理解できる。 【キャリアデザイン】自らの現状を認識した上で将来のありたい姿を考え、その実現に必要な学習や行動を自ら考えることができる。 【情報セキュリティ】ICTツールを情報収集や情報発信に活用する際のルールやリスクを理解する。 【技術者倫理】技術が社会や自然に及ぼす影響や効果について理解する。 【課題発見型学習】課題発見および課題解決手法の立案に、各種の発想法を用いてチームで取り組み、聞き手に分かりやすく論理的に発表できる。 【汎用的技能】自らの役割に責任を持ち、他社を尊重しながら協働作業に取り組むことができる。 【汎用的技能】収集した情報の取捨選択・整理・分類を行い、活用すべき情報を選択できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)			標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
工学基礎能力	自身の専門系に関する基礎的能力を身に付けるとともに、他分野・ICT技術と自身の専門分野との関連性について理解できる。			自身の専門系に関する基礎的能力を身に付けることができる。		自身の専門系に関する基礎的能力を身に付けることができない。	
キャリアデザイン	自らの現状を認識した上で将来のありたい姿を考え、その実現に必要な学習や行動を自ら考えることができる。			自らの現状を認識した上で将来のありたい姿を考えることができる。		自らの現状を認識した上で将来のありたい姿を考えることができない。	
情報セキュリティ教育	ICTツールを情報収集や情報発信に活用する際のルールやリスクを理解できる。			ICTツールを情報収集や情報発信に活用する際のルールやリスクを理解できる。		ICTツールを情報収集や情報発信に活用する際のルールやリスクを理解できない。	
技術者倫理	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果について理解できる。			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果について理解できる。		技術が社会や自然に及ぼす影響や効果について理解できない。	
課題発見型学習	課題発見および課題解決手法の立案に、各種の発想法を用いてチームで取り組み、聞き手に分かりやすく論理的に発表できる。			課題発見および課題解決手法の立案に、各種の発想法を用いてチームで取り組むことができる。		課題発見および課題解決手法の立案に、各種の発想法を用いてチームで取り組むことができない。	
汎用的技能	自らの役割に責任を持ち、他社を尊重しながら協働作業に取り組むことができる。			他社を尊重しながら協働作業に取り組むことができる。		他社と協働作業に取り組むことができない。	
汎用的技能	収集した情報の取捨選択・整理・分類を行い、活用すべき情報を選択できる。			収集した情報の取捨選択・整理・分類を行い、活用すべき情報を選択できる。		収集した情報の取捨選択・整理・分類を行うことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
Ⅰ 人間性 Ⅱ 実践性 Ⅲ 国際性							
教育方法等							
概要	自身の専門分野における演習や実験に加え、自身に関連する可能性のある他専門分野に関する演習や実験を通して、幅広く工学的基礎知識・技術を身に付ける。 また、専門分野ごとに異なる視点・考え方を理解でき、幅広い観点において工学を捉えられるようになることを目的に、各専門系の枠組みを超えた班編成においてグループワークを行う。 上記に加えて、現代社会に必要な情報リテラシー、技術者に必要な倫理観、自身のキャリア形成に必要な能力や態度を身に付けることを目的とする。						
授業の進め方・方法	授業は、基本的に実験や演習などを中心に行う。 グループ単位での演習や実験も行われる。 課題の提出などに当たっては、Blackboardなどが使用されることもある。 また、講義室の変更などに関する連絡はOffice365のメールにより行われる。						
注意点	・BlackboardやOffice365のメールを、確実に利用できる様にしておくこと。 ・授業時間以外も活用して課題作製や調査研究などに取り組むことが必要となる場合もあります。 ・グループ学習では、自分の役割を見つけ、グループ活動に積極的に参加すること。 ・学習にあたっては、自己のキャリアについて常に意識し、将来の進路選択を行う際の参考にすること。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	前期内容ガイダンス		前期内容の概要について理解する。		
		2週	Arduino製作実験を通して学ぶIoT教育（１） -次世代社会におけるIoTとマイコンボードの役割-		次世代社会での工学におけるIoTの重要性および、通信技術やマイコンの役割を理解できる。		
		3週	Arduino製作実験を通して学ぶIoT教育（２） -Arduinoの仕組み-		Arduinoプログラムの基礎となるアナログ・デジタル入出力、変数、制御文、関数などについて理解できる。		
		4週	Arduino製作実験を通して学ぶIoT教育（３） -各種入力センサ制御-		超音波センサ、ジャイロセンサなどの入力センサの制御について理解できる。		
		5週	Arduino製作実験を通して学ぶIoT教育（４） -各種出力部品制御-		モーター、LEDなどの出力部品の制御について理解できる。		

	2ndQ	6週	Arduino製作実験を通して学ぶIoT教育（５） -変数・マルチタスク-	変数やマルチタスクについて理解し、それらを活用したプログラムを作成できる。		
		7週	自専門系演習（１） モデルロボット製作	これまでの内容を統合したモデルロボットを作成できる。		
		8週	自専門系演習（２） PBL課題提示，計画書作成	モデルロボットを基に，与えられた課題の解決方法を検討し，開発計画書にまとめることができる。		
		9週	自専門系演習（３） ロボット開発（１）	課題の解決するためのロボットを開発できる。		
		10週	自専門系演習（４） ロボット開発（２）	課題の解決するためのロボットを開発できる。		
		11週	自専門系演習（５） ロボット開発（３）	課題の解決するためのロボットを開発できる。		
		12週	自専門系演習（６） ロボット開発（４）	課題の解決するためのロボットを開発できる。		
		13週	自専門系演習（７） ロボット競技会	与えられた課題の解決するロボットを動作させることができる。		
		14週	情報セキュリティ教育	インターネットを利用する上での様々な脅威を認識できる。		
		15週	キャリア教育	自専門系OBの話を聞き，企業・働き方について理解できる。		
		16週				
		後期	3rdQ	1週	後期内容ガイダンス	後期実施内容の目的・意義を理解できる。
				2週	技術者倫理教育	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解できる。
				3週	グループワーク演習（個人ワーク） -ガイダンス-	グループワークの目的，実施内容について理解できる。
				4週	グループワーク演習（個人ワーク） -タイプ分け演習-	自己分析手法について理解できる。
				5週	グループワーク演習（個人ワーク） -発表資料の作成-	発表資料の作成方法について理解できる。
6週	キャリアシンポジウム			高専出身の企業人の話を聞き，企業・働き方の多様性について理解できる。		
7週	他系専門内容（１）			他系専門内容についての知識を身に付けることができる。		
8週	他系専門内容（２）			他系専門内容についての知識を身に付けることができる。		
4thQ	9週		他系専門内容（３）	他系専門内容についての知識を身に付けることができる。		
	10週		他系専門内容（４）	他系専門内容についての知識を身に付けることができる。		
	11週		グループワーク演習 -グループディスカッション-	主体性をもってグループでの議論に参加できる。 作業の中において情報を収集・整理・分析し，活用していくことができる。		
	12週		グループワーク演習 -グループディスカッション-	主体性をもってグループでの議論に参加できる。 作業の中において情報を収集・整理・分析し，活用していくことができる。		
	13週		グループワーク演習 -グループディスカッション-	主体性をもってグループでの議論に参加できる。 作業の中において情報を収集・整理・分析し，活用していくことができる。		
	14週		グループワーク演習 -ディスカッション内容のまとめ-	他者に理解してもらうことを意識して，論理的な説明ができる。 他者の発表内容を理解し，評価ができる。		
	15週		ポートフォリオ	自身の活動の振り返りを行うことができる。		
	16週					
評価割合						
	課題・レポート	取組み	合計			
総合評価割合	80	20	100			
基礎的能力	20	10	30			
専門的能力	40	0	40			
分野横断的能力	20	10	30			